

(一社)東京都トラック協会青年部 発行

編集者: 広報委員長 川島 健太郎(千代田支部・アイ・エス運輸(有))

東京都新宿区四谷三丁目1-8

TEL: 03-3359-4137

FAX: 03-3359-6020

東ト協HP内青年部ページ QRコード⇒

<https://www.totokyo.or.jp/ttaseinenbu>



## ◇新年のご挨拶

本部長 佐藤 文平【大田支部 トーヨーエクスプレス(株)】

あけましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中は、青年部活動へのご理解ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

令和8年は干支で「丙午(ひのえうま)」にあたります。午は力強さと前進を象徴し、丙は火の陽を示すことから、情熱と勢いに満ちた一年になると言われております。まさに青年部の若さ溢れる力強さや活発さを表せる年になるのではないかと今から確信しております。

さて、「わくわくの追求」をテーマに青年部員の皆さんにどんなことが刺さり活動に興味を持っていたか、を執行部一同、色々と模索し実行して参りました。活動報告自体はきらめき内他記事にて詳細に記述していただいているのでここでは割愛しますが、身体を存分に動かす研修を試みたり、万博に行ってみたり、被災地支援を試みたり、近場ながら国内研修旅行を組んでみたり、インドネシアでがつつり研修を試みたり、、、と随分とアクティブに動き回ったなと思います。各種イベントにご参加いただいた皆さまには本当に感謝しております。学びは勿論あったかと思いますが、恐らくそれ以上にただただ楽しかったはずです。私は皆さんと「同じ釜の飯を食う」ではないですが行事毎に色濃い思い出ができましたので非常に有意義で楽しかったです。

現体制での活動は2月に行われる東京大阪交流会とチャリティコンペのみとなり、そして6月に行われる総会を以てまた新たな体制での青年部が始まります。組織は次へ次へと繋ぎ続ける意識を持つことで活性化すると確信しておりますので、青年部員の皆さまには引き続き活動へのご理解ご協力、そして積極的な参加をお願いいたします。

本年もどうぞよろしく願いいたします。



## ◇ブラインドサッカー研修

江俣 重之【墨田支部 (株)凌雲物流】



7月5日(土)すみだフットサルアリーナで、「ブラインドサッカーを用いたチームビルディング研修会」を行いました。

日本ブラインドサッカー協会事業推進部 岡村様と 東京2020パラリンピック日本代表として出場された、品川 CC パペレシアル 寺西一選手を講師として招き、青年部員20名と共に、実際に身体を動かす体験型の研修をしました。ブラインドサッカー(見えないサッカー)は、ゴールキーパー以外のプレイヤーは全盲の選手で、アイマスクを装着し、音の出るボールを用いてプレーするスポーツです。目を閉じた状態でのスポーツ体験を通じて、コミュニケーションの大切さ、人と人の繋がり・接し方、そして、事業経営・健康経営について学びました。

研修の内容ですが、最初は、アイマスクを付けた状態での準備運動から始まりました。が、準備運動(ストレッチの方法)を声だけで伝える事の難しさを早速思い知ることとなりました。また、約5M離れた場所に置かれたボールまでの移動では、聴覚だけを頼りに動く事の困難を、その他、同じ趣旨を持つ仲間同士が集まるゲームでは、言葉の重要性を再認識させられました。最後のゲームでは、アイマスクをした1人のプレイヤーが、周囲をかこむその他のプレイヤー達がパス回しするボールに時間内に何回触れるかを競い合いました。こちらは声の抑揚や言葉の選び方で如何に相手に正確に物事が伝わるかを考える貴重な機会になりました。

研修会を通じて、信頼関係を築くための言葉の重要性、コミュニケーションの大切さを再認識する価値のある時間を過ごす事が出来ました。



## ◇大阪・関西万博視察研修会に参加して

鶴田 慎一郎【港支部 (有)鶴田運送店】



令和7年8月22日(金)東京・大阪の青年組織による「大阪・関西万博視察研修会」に参加してまいりました、(有)鶴田運送店 鶴田慎一郎でございます。関西万博視察研修会についてご報告申し上げます。

視察研修には大阪19名、東京15名と多くの方が参加されました。私は大阪の青年部の方との研修会、懇親会は参加したことはなく、会場も遠方であり平日参加ということもあり参加を迷っておりましたが、結果的にはとても有意義な時間を過ごすことができました。

何といっても興味があったのは、私の生まれる前の1970年に大阪で開催された日本万国博覧会に続く、大阪で開催されている2025年日本国際博覧会の視察研修です。

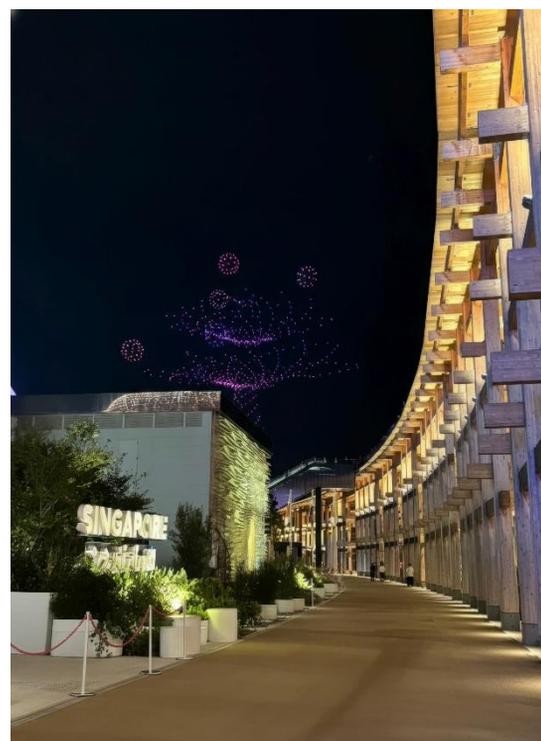
金曜日はなんばに集合し、貸し切りバスで万博会場に向かいました。車中から大屋根リングが見えて万博に来たのだと実感。11時に西ゲートから入場して各々で見学しました。万博はさまざまな国と企業のパビリオンがあり、普段触れないことを知ることもできます。

会場はとにかく広くどのように回ったらいいかわかりませんでした。「インドネシア館が空いている」と青年部グループラインに書いてあったので、まずそちらに行ってきました。

待機列では今後の作戦を立てながら並んでいました。アメリカ館は凄い行列であって最終列が分からないほどでありました。ネットの事前予約をしてもなかなか予約に繋がらず、金曜日は一度も使うことができないで終わってしまいました。炎天下のため大屋根リングの下で休憩している方も多く、風が抜けていて涼しかったです。こういう空間があるのもいいと感じました。

オーストラリア館は青年部で事前に予約を取って頂いたのでスムーズに入場でき、オーストラリアの動植物の展示などを見ることができました。フランス館は大阪府トラック協会・青年部会の水本様の紹介で、列に並ばずに見ることができました。この場で御礼申し上げます。ルイヴィトン、ロダンをはじめとする優れたデザインに触れることができました。

16時に集合して万博会場を出て、その後道頓堀「治兵衛」にて懇親会が開催されました。多くの方が参加され、大阪の方が普段どういう思いで仕事をされているか、大阪のおばちゃんの話も聞けたりしてとても楽しかったです。



さて折角金曜日に大阪に来たので、私はそこから2泊して三日連続万博に行ってきました。アメリカ館、GUNDAM NEXT FUTURE PAVILION、ブルーオーシャンドーム、国際赤十字・赤新月運動館、スイス館など見ることができました。ガンダムのモビルスーツの平和利用や映像の迫力はとても面白かったです。赤十字の役割やその人々の思いも伝わりとても感動いたしました。

今、世界を取り巻く状況でさまざまな問題が発生しております。今回の万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」。私の好きな言葉の一つに、デザインは地球に残された限りのない資源というものがあります。どのようにデザインをしていくのか、私たちの思いをつなげて考えていく限り道の終わりはなく、それによって一歩前に進めることができます。万博ではそのようなデザインに触れる機会もあり、素晴らしい体験ができました。

個人的には伊丹空港着の飛行機を取ったつもりが関空着になってしまっていたり、日曜日の万博会場に入る列に並んでいるときに一眼レフを落として壊してしまい、使えない重量のあるカメラを持ち運ばないといけなくなったりなど多少のトラブルはありました。それでも今回の東京・大阪の青年組織による「大阪・関西万博視察研修会」はとても有意義で、また別の機会がありましたら青年部の活動にも参加したいと思いました。

参加されました皆様、炎天下の中お疲れ様でございました。

## ◇トラックフェスタ TOKYO2025

水野 圭【中央支部 伊東倉庫運輸(有)】

中央支部青年部の水野です。トラックフェスタ TOKYO2025に参加し、多くの来場者と直接交流できたことは非常に貴重な経験となりました。会場には家族連れやお子様を中心に幅広い年代の方が訪れ、トラックや物流に対する関心の高さを肌で感じる一日でした。普段はなかなか伝える機会の少ない私たちの業務内容や取り組みを、直接説明できたことに大きな意義を感じました。

当支部ブースでは、車両の特徴や昇降装置、日常業務の流れなどを紹介し実演しましたが、来場者の皆さんが熱心に話を聞いてくださり、積極的に質問をしてくれたことが印象的でした。特に子ども達がトラックに強い興味を示し、目を輝かせながら話を聞いてくれた姿は心に残っています。将来の仕事として物流や運送業に興味を持つきっかけに



なれば嬉しく思います。また、交通安全や環境への取り組みに対して「安心した」「知らなかった」といった声を多くいただき、業界としての努力が少しずつ理解されていることを実感しました。

来場者との会話を通じて、伝え方の工夫や分かりやすい説明の重要性も改めて認識しました。ブースの出店を通して、物流は単に物を運ぶだけでなく、人々の生活を支える社会インフラであることを伝える大切さを強く感じました。

今後もこのようなイベントを通じて、地域の方々とのつながりを深め、物流業界への理解を広げて行ければ幸いです。



## ◇宿泊研修会開催について



作成を行いました。

色々な発言の中で、おもしろいアイデアや実践経験を基にした意見などを発表し、真剣に取り組むつつ楽しみながら研修を行うことができました。

研修会終了後は、宿泊先のホテルにてバイキング形式の食事会を行い、部員間の親睦を深めることができました。

普段はなかなか懇親会等に出られない部員もいるなかで、初めての行いとなる国内研修会でしたが、佐藤本部長をはじめ、企画・運営の森本研修委員長のおかげで青年部員の絆を深める良い機会になったのではないかと思います。来年以降も楽しみな研修会となりました。

山田 博文【大田支部 板橋商事(株)】

10月4日(土)～10月5日(日)におきまして、熱海にて国内宿泊研修会が開催されました。研修会はホテル近くの会場を使用しての開催となり、19名の参加で3班に分かれてのグループディスカッション形式で行いました。

「勝ち残る企業に必要なこと」を主題に“マンダラート”(←大谷翔平選手も取り組んでいる)を作成して発表を行いました。各班、活発な意見とアイデアを駆使してマンダラートを埋めていき、時間いっぱいまで使い切り発表用パワーポイントの



## ◇青年部による石川県輪島市復興支援事業

総務委員長 福田 順一【江戸川支部 (株)盛運】



立てられる予定です。

青年部では会員の思いが形となる支援活動を今後も継続し、被災地に寄り添った息の長い取り組みを続けていきます。

東京都トラック協会青年部は2025年10月9日、石川県輪島市を訪問し、市内の小中学校を対象とした支援プロジェクトの一環として寄贈式を行いました。

本プロジェクトは2024年1月に発生した能登半島地震で被災した地域の教育環境を少しでも支えたいという思いから、青年部が主催したチャリティーゴルフで集まった募金を活用して実施したものです。今後5年以上にわたって継続的な支援を行うプロジェクトで、今回は輪島市立河井小学校の敷地内仮設校舎で学ぶ「輪島市6小学校」に対し、授業や学校行事などで活用してもらうためデジタルカメラ3台を寄贈しました。

当日は冨水校長や輪島市関係者の立ち会いのもと和やかな雰囲気で行われ、寄贈品は今後子どもたちの学校生活や日々の活動を記録する学校だよりの作成などで役

## ◇海外研修について

研修委員長 森本 勝仁【江戸川支部 東亜物流(株)】

本研修は、2024年より特定技能制度に新たに追加された「トラックドライバー」に焦点を当て、インドネシアという国の特性をはじめ、現地における送り出し機関の体制、制度運用、人材育成の実態を把握・理解することをメインテーマとして、2025年11月20日から24日までの5日間、首都ジャカルタを中心に実施されました。

インドネシアは人口約2億8千万人を有し、若年層が全体の約7割を占める成長市場であり、豊富な労働力と安定した経済成長を背景に、今後も高い将来性が期待される国であります。





本研修には事務局を含め総勢 15名が参加し、技能実習生の送り出し機関、自動車教習所、日本語学校を訪問し、人材育成の現場を直接視察しました。20 歳前後の若い技能実習生たちが「家族や将来を背負い、日本で働く」という強い覚悟を持って来日していること、また送り出し機関が若者一人ひとりの人生に責任を持ち、日本へ送り出しているという事を深く理解する、非常に貴重な機会となりました。【送り出し機関】:Fuji bijak prestasi(フジ・ビジャック・プレスタシー)

あわせて、JETRO(日本貿易振興機構)およびインドネシア日本国大使館での意見交換を通じ、インドネシアの国民性、法制度、将来性、ならびに進出時の留意点等について、具体的かつ実務的な説明を受けることができました。

また、市内視察や文化施設訪問を通じて、宗教(イスラム教)や生活習慣への理解を深め、インドネシアの人材を特定技能制度で受け入れていく上では、文化や価値観への十分な配慮が不可欠であることを改めて認識しました。

今回の視察は、海外人材を単なる「労働力」としてではなく、共に成長するパートナーとして捉える重要性を学ぶ、大変有意義な研修となりました。今後は、本研修で得た知見を広く共有し、持続可能な人材活用と業界全体の発展につなげていきたいと考えております。



ジャカルタ研修視察動画

## ◇研修・忘年会 組織委員長 野地 和彦【板橋支部 (株)野地輸送】

令和7年 12 月 10 日に研修会と忘年会を行いました。1 部の研修会では「改正物流 2 法と物流企業がとるべき戦略」をテーマに岩崎仁志(エイチアイプランニング代表取締役)様にとるべき対策や経営戦略を最新の法改正を踏まえて解説いただきました。物流業界を取り巻く経営環境は厳しさを増すばかりですが、生き抜くための実践的なノウハウを学ぶことができました。

2 部の忘年会はホテルウイングインターナショナルで行いました。多くの方にご参加いただき、冒頭で佐藤本部長の 2025 年の活動報告を皮切りに参加者の懇親を深め、後半で少しずつ新年度に向けた雰囲気も感じられるととてもいい会となりました。



\*\*\*\*\*

## 行事予定

★全ト協青年部会 全国大会  
 令和 8 年 2 月 13 日(金)  
 開催地：新宿 京王プラザホテル  
 研修会 14:30~17:30  
 交流会 17:40~19:00  
 ※終了後大阪ト協青年部会および京都府青年部会との交流会を行います。

★東ト協青年部チャリティゴルフ  
 令和 8 年 2 月 15 日(日)  
 開催地：紫カントリークラブ



青年部 Facebook ページ

活動を随時掲載中!!!

QR コードで読み取り⇒⇒



皆様の いいね! をお待ちしております m(\_ \_)m

### ◎ 編集後記 ◎

広報委員長 川島 健太郎  
 【千代田支部 アイ・エス運輸㈱】



2026 年 1 月号をお届けするにあたり、今号を象徴する三つのテーマについて振り返ってみたいと思います。

一つ目は、大阪・関西万博の視察です。

「いのち」「未来」「共創」といったテーマに触れ、物流は単なる「裏方」ではなく、社会を支える大切な基盤なのだ改めて実感しました。持続可能性や新しい技術への挑戦は、現場を効率よくするだけでなく、私たちの仕事の価値そのものを高めてくれるはず。

二つ目は、トラックフェスタ TOKYO2025 です。

会場の賑わいをご覧になった方はお分かりかと思いますが、物流業界の人だけでなく、家族連れや学生さんなど、普段は業界に関わりがない方々がたくさん来場されていました。トラックやドライバーの仕事に「見て、触れて、知る」機会を作ることは、私たちの業界をもっと好きになってもらうための大きな一歩ですね。

そして三つ目は、インドネシア・ジャカルタでのドライバー育成の現状です。

現地では若く意欲的な人材が育っていますが、日本で彼らを受け入れるには、まだ制度や言葉、文化の壁があるのも事実です。

迎える側の私たちが、どれだけ覚悟を持って環境を整えられるかが、今後のカギになるでしょう。

新しい年を迎え、日本の物流業界は大きな変化の時を迎えています。課題はたくさんありますが、社会からの期待も確実に高まっています。

本年が、業界全体がより開かれ、未来へ向かって進化し続ける一年となることを願って、新年のご挨拶とさせていただきます。